

日本農薬総合研究所 経営者会議会員らが 視察



農薬の研究開発の工程について
説明を受ける参加者

大阪府農業経営者会議(中筋秀樹会長)は10月3日、地区研究会を開催し、河内長野市・日本農薬株式会社総合研究所を視察。当日は、会員農家等12人が参加した。

同研究所の大岡祥晃研究グループリーダーが研究所の沿革、概要について説明。農薬は、①毒性、②摂取後の代謝、③害を及ぼさない残留の程度、④生物や環境への影響、といった4つの視点に基づき、安全性の研究がなされる。多くの実験・確認・解析を経て実際に製品化される農薬は16万種類に一つと極めて少ないこと等が述べられた。

また、同社大阪支店の村井政彦専任課長からは、農薬登録制度や再評価制度について報告。平成30年の農薬取締法の改正により、今年度から農薬の再評価が開始されたことを受けて、審査から登録に至るまでの具体的なスケジュール等について説明した。その後、経営者会議事務局からは、大阪府のマイナー作物への農薬登録拡大推進体制と流れについて説明した。

参加農家からは、再登録やシユンギク等マイナー作物の農薬登録に係る要望を中心に、成分の残効や、希釈の程度、結球などの条件による農薬の取り扱いなどについて質問や意見があった。

(沼田)

大阪産農産物を展示

こども食堂等へ寄贈

大阪府農業経営者会議



中筋会長(左から3番目)から
吉村市長(中央)に農産物を手渡した

大阪府農業経営者会議(中筋秀樹会長)は10月24日、農業会議設立70周年記念大阪府農業委員会大会に際して、会場で会員が生産した農産物を展示。大会に出席した消費者に大阪農業をPRした。当日はシユンギク等の軟弱野菜、ブドウ、泉州水なす、胡蝶蘭など19会員が生



展示に足を止める来場者たち

産した農産物を展示。参加者らは、「大阪府内に多様な農産物の産地があることを知れて良かった」「エビイモの実物を初めて見た」など様々な反響があった。

大会終了後は富田林こども未来室に寄贈。中筋秀樹会長から吉村善美富田林市長に手渡した。市長は、「府内各地から様々な農産物を提供いただきありがたい」と感謝の意を述べ、中筋会長からの各農産物の説明を熱心に聴き入った。農産物は同市内のこども食堂や市内の生活困窮者向け支援等として提供された。

消費者の農業理解を促進 農業・農政の説明パネル展示

当日は、農業委員会大会における農産物展示とともに、消費者に向けた農業理解の促進を図るポスターやパネルも紹介。農業委員会組織の沿革やおおさか農政アクションプラン、今般改正された食料・



農産物とともに啓発パネルを展示した

(沼田)